

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 大西敬三 氏

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元株式会社日本製鋼所代表取締役社長 大西敬三氏は、平成30年2月3日、逝去されました。享年84歳。逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和35年3月北海道大学工学部冶金工学科卒業後、株式会社日本製鋼所に入社、材料研究所所長などを経て平成3年には室蘭製作所長、平成7年から代表取締役社長を務めた後、平成13年相談役、平成21年名誉顧問の要職を歴任されました。

氏は日本製鋼所入社後、エネルギー関連を主体とした構造用鍛鋼部材の開発や製造技術の進歩、発展に大きく寄与し、重量600トンの超大形鋼塊よりタービンローターシャフトを製造する技術の確立、原子炉压力容器部材の大形一体鍛鋼化、大型ステンレス鋼部材の材料開発や製造技術開発等に尽力され、産業機器の大型化、高性能化、高信頼化等を実現してきました。

石油精製压力容器の分野では、材料の設計許容応力の向上と水素脆化対応技術の開発に金属組織学の観点から取り組み、高温耐圧強度に優れた極厚肉鍛鋼製大型压力容器材料を開発・実用化しました。開発材は米国、独、日本における材料標準、設計規格の認定を得て実用化が行われ、これらの压力容器用材料の研究開発により、氏は科学技術庁長官賞をはじめとして計6件の表彰を受けています。

一方で将来の水素エネルギー時代の到来を見据え、室温で金属中に多量の水素を可逆的に吸放出可能な水素吸蔵合金およびその応用システムの開発にいち早く取り組みました。鉄鋼材料の研究開発で培った金属中への水素の侵入挙動や水素と金属の相互作用に関する豊富な知見を基に、水素吸収能力に優れた各種の合金開発を進めるのみならず、自ら開発した合金を用いた応用システムの開発、工業化にも力を注いできました。その応用システムとしては、発電所で使用される水素純度向上システムや金属と水素との反応熱を利用したヒートポンプシステムなど多岐に渡り、水素吸蔵合金の新たな応用製品を他に先駆けて世の中に送り出してきました。これらの水素吸蔵合金に関係した技術は、近年、水素エネルギーへの取り組みが盛んに進められる中で、低压で安全に水素を貯蔵する技術として花開きつつあります。

社長在任中は、室蘭製作所の合理化を進める一方で、水素のみならず各種の新規事業の創出に尽力されました。氏は仕事に対しては厳しい人でしたが、人を育てることに力を注ぐとともにコミュニケーションを大切にする温かい人だったこともあり、多くの人に慕われておりました。

氏は長年にわたって本会理事、評議員を務められたほか、日本産業機械工業会理事、日本機械工業連合会理事、日本鋳鍛鋼会会長など、数多くの団体の要職を歴任し、鉄鋼技術分野に留まらず、広く我が国の産業経済の発展にもその深い学識と豊富な経験によって多大な貢献をされました。また、それまでの功績に対して平成17年11月に旭日中綬章を受章されています。

本会では、昭和54年に西山記念賞、平成7年に香村賞、平成15年に渡辺義介賞を授与され、平成18年には名誉会員に推挙されました。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大な業績を偲び、会員一同、心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成30年3月

日本鉄鋼協会 会長 丹村洋一